

世界一大きな？ イースターエッグ

田沼 武能

(写真と文)



見渡すかぎりの大農場地帯である。中世以来の古い街道ぞいに、素朴なレストランが見つかる。人のよさそうな夫婦がもてなしてくれて、しかも都会ではまず味わえないフランス料理を堪能させてくれる。地ワインもおいしい。

そんなフランスの田舎を旅するのが私は好きだ。中でもブルゴーニュ地方は、中世からのロマネスク様式の大聖堂や修道院がいくつも保存されており、小さな教会まで入れると数えきれぬほどの文化遺産が今に息づく。

ブルゴーニュのブドウ畑は、中世の修道僧たちが自給自足のための財源に、斜面の荒地を開墾して、ワインの生産を始めたのがきっかけと聞く。今ではボルドーと肩を並べるフランスワインの生産地として名高い。

美酒の生まれるところに「よき食文化も発展」、文化全体も美しい。そんな三味一体の土地柄にぞっこんほれこんだ日本人がいる。佐多保彦さんである。

かつてのブルゴーニュ公国の首都であったディジョンから約50キロ西にシャイイの城がある。佐多さんはこのいわば「城主」となって、荒廃きっていた十六世紀のその城を修復した。往時をしるばせる姿に復元して、今はホテルとして再利用できるまでになった。

城主はこの地域の人と城が交流するよう「エッグフェスティバル」というのを企画した。まず高さ1メートル近くもある巨大なタマゴ型の石膏を百個庭に用

田沼武能 / たぬま・たけよし

写真家。1949年東京写真工業専門学校卒業後、木村伊兵衛氏に師事。芸術新潮嘱託、タイムライフ社嘱託を経て、'72年フリーに。'75年日本写真協会年度賞、'79年モービル児童文化賞、'85年第33回菊池賞、'90年紫綬褒章。日本写真家協会会長、東京工芸大学教授。著書は『アンデス賛歌』『世界の子供たちは今』『地球星の子どもたち』『戦後の子供たち』他多数。世界の子供の写真をライフワークとし、世界の平和と地球環境の保全を訴える。

意した。毎年春のイースターの季節に近在の子どもたちに呼びかけ、これに思い思いの絵を描いて楽しんでもらうのである。すでに11年目になるエッグフェスティバルは、幼稚園、小学校の子どもたちと親や先生たち、約300人が参加して、それぞれのグループごとに合作で絵を描いていく。幼稚園児にとっては自分の背丈より大きなタマゴに挑戦するのだ。指導の先生は下絵を用意して、他のチームに負けまいと指示する。先生や親の方が夢中になるのも世界共通ではほえましい。高学年の子となると、さすがに自分たちの自由に描いている。

会場はもう、ごったがえすような熱気で、さて描き終えた巨大タマゴは、すなわちエッグアートは、村のあちこちに置かれ、静かな村は春が集団でやってきたような華やぎとなる。集会場では、お菓子和ジュースがふるまわれ、子どもたちは大はしゃぎだ。

実はこのシャイイ村は、小学生が数人しかいない過疎村なのである。新しい城主は復活祭のエッグフェスティバルで城と村を復活させようと願っているように見うけられた。



ブルゴーニュへ、ようこそ

中世がいまだに息づいている
ブルゴーニュへいらっしやいませんか。
極上の銘酒を生み出すぶどう畑、
グルメレストランの数々、中世そのままの街なみ、
美しく広がる大地や、小さな村々、
豊かな生命力と「はだのぬくもり」を感じる地方、
それがブルゴーニュです。

Château de Chailly / シャトー・ドゥ・シャイイ



お問い合わせ
(株)佐多商会ヴィタリテ事業部 担当：岩沢
Tel. 03 3582 5087